

四八六〇 「四界」

四八六一 混淪の立、

四八六二 神に在れば則ち神は變じ天は定る、

四八六三 物に在れば則ち機は動き體は實す、

四八六四 實は虚と偶す、動は静と偶す、而して

四八六五 静は實と伴う、動は虚と伴う、故に

四八六六 其の精は通塞す、而して方位を地とす、

四八六七 其の麓は轉持す、而して虚實を物にす、

四八六八 體は散結して玄界に入り、覆載して文章を具す、

四八六九 性は色を以て日影を成し、性を以て水燥を成す、

うつぼつ
かつ、

こんりん
りつ、

しん あ すなわ しん へん てん さだま
神に在れば則ち神は變じ天は定る、

ぶつ あ すなわ き うご たい じつ
物に在れば則ち機は動き體は實す、

じつ きょ ぐう どう せい ぐう しか
實は虚と偶す、動は静と偶す、而して

せい じつ ともな どう きょ ともな ゆえ
静は實と伴う、動は虚と伴う、故に

そ せい つうぞく しか ほうい ち
其の精は通塞す、而して方位を地とす、

そ せん てんじ しか きょじつ ぶつ
其の麓は轉持す、而して虚實を物にす、

たい さんけつ げんかい い ふくさい もんしょう ぐ
體は散結して玄界に入り、覆載して文章を具す、

せい しき もつ にちえい な せい もつ すいそう な
性は色を以て日影を成し、性を以て水燥を成す、

(PB 363)

(I 433a)